

心理劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第14巻 第1号 / 平成21年12月1日 Vol.14, No.1, December 2009

巻頭言.....高良 聖... 1

特集・シンポジウム<心理劇-共に育つ関係状況の創造->

はじめに-特集企画の主旨.....武藤 安子... 3

第一部

講演 サイコドラマ原理に基づく福祉への支援実践 受容的交流理論の開発.....石井 哲夫... 5

対談 石井 哲夫 増野 肇 (司会)武藤 安子...15

第二部

みんなが参加する心理劇.....増野 肇...23

共に育つための心理劇.....川幡 政道...25

全員参加型心理劇における使用上の注意点.....高良 聖...31

全員参加の心理劇に込められている意義と技.....土屋 明美...35

全員参加の心理劇:サイコドラマの素晴らしさ.....前田 潤...39

サイコドラマに言語化は不要なのか?.....諸江 健二...41

全員参加の心理劇の意義-共に育つ関係力動のプロセスから-.....吉川 晴美...45

原 著

青年期の高機能広汎性発達障害者に対する心理劇-セミ-オープン・グループでの適用-

高原 朗子・池田 顕吾・渡邊須美子・面高 有作...47

実践報告

個人の病理か関係の病理か-「片づけられない女性」のロール・プレイングを通して-

三宅 育子・川幡 政道...61

家庭内暴力を伴うひきこもり青年の親に対するロール・プレイングをもちいた面接と援助の意義に

ついて.....浮田 徹嗣...75

書 評

「軽度発達障害のための心理劇-情操を育む支援法-」(高原朗子編著).....小笠原美江...87

情 報

日本集団精神療学会第26回大会印象記.....藤堂 宗継...89

第17回国際集団精神療学会(Rome)報告.....磯田雄二郎...90

会 報.....91

日本心理劇学会

JAPAN PSYCHODRAMA ASSOCIATION

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

Vol.14, No.1 / December 2009

CONTENTS

Remarks

Introductory Remarks.....Kiyoshi Takara... 1

Remarks on Special Articles · Symposium : Using psychodrama to create interpersonal situations in which to grow together

Introduction.....Yasuko Mutoh... 3

Part 1

The beneficial results of using psychodrama to support patients' welfare

– The development of an Acceptable Relationship Theory –.....Tetsuo Ishii... 5

Dialogue.....Tetsuo Ishii and Hajime Mashino...15

Part 2

Psychodrama in which all members participate.....Hajime Mashino...23

Psychodrama for mutual development.....Masamichi Kawahata...25

Using psychodrama with all participants.....Kiyoshi Takara...31

The significance and skills contained in using psychodrama in which all members participate
Akemi Tsuchiya...35

Psychodrama as a Wonderful World.....Jun Maeda...39

Is it not important to express an experience using language?.....Kenji Moroe...41

The significance of psychodrama in which all members participate
– The process of relation dynamics for mutual development –.....Harumi Yoshikawa...45

Articles

Using psychodrama among youth with high-functioning pervasive developmental disorders

– The application of psychodrama in a semi-open group –
Takahara Akiko Ikeda Kengo Watanabe Sumiko Omodaka Yuusaku...47

Practice Studies

Personal disorders or interpersonal disorders

– A role-playing approach in sessions with “ a woman who could not clean her room ” –
Ikuko Miyake Masamichi Kawahata...61

The effectiveness of utilizing role-playing in medicine and counseling :

– Dealing with socially withdrawn adolescents' aggression towards their parents –...Tetsuji Ukita...75

Book Review.....87

Information.....89

Announcement.....91

Edited and Published by

Japan Psychodrama Association

(c/o Uekusa Gakuen University, Faculty of Developmental and Educational Studies, 1639-3 Oguracho,
Wakaba, Chiba, 264-0007, JAPAN)

President : Kiyoshi Takara (Meiji University)

Editor : Masamichi Kawahata (Yokohama City University)

Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University), Masahiro Ito (Niigata University of Health and Welfare), Yoshie Ogasawara (Psychotherapy Office TMS), Munetsugu Todo (Yamazaki Mental Hospital), Susumu Harizuka (Kyushu University), Yasuko Muto (Kyoritsu Women's University), Harumi Yoshikawa (Tokyo Kasei Gakuin University)

執筆要項

1. 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合は、記載する情報は必要最小限とし、プライバシーに十分配慮すること。
2. 論文の長さは、原則として原著・総説・事例研究・実践報告は、図、表、写真を含めてA4判(40字×40行)用紙11枚、短報・資料・その他は8枚を上限とする。上限を超えても掲載が認められることがあるが、その場合は原則として超過分の制作費は投稿者の負担とする。
3. 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。図、表、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。本文にはページ数をつけること。
4. すべての投稿論文には、表題、著者名、所属機関名、論文の種別、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを記載し、かつ表題、著者名、所属機関名については英語表記を添え、本文に添付する。英文要約は100～200語で作成し、5項目以内のキー・ワードをつけること。英文要約およびキー・ワードについては日本語訳を添えること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
5. 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
6. 引用文献は本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名(発行年)で引用すること。
 - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度(西暦)、論題、誌名、巻(ゴチック)、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度(西暦)、書名、発行所の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
 - b) 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990a、1990bのように区別して記載すること。
7. 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
8. 投稿論文については、執筆者に別刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
10. 投稿に際しては、投稿原稿とは別に、著者名、所属機関名、謝辞を削除したコピー2部を添え、書留郵便(エクスパック可)にて送付すること。郵送とは別に、投稿原稿をEメールの添付ファイルとして送ること。

編集委員

委員長：川幡 政道

委員：伊東 正裕 茨木 博子 小笠原 美江 藤堂 宗継 針塚 進
武藤 安子 吉川 晴美 Douglas E. Forster (英文校閲)

編集規定

1. 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
2. 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。
ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
3. 本誌には、特集、原著、総説、事例研究、実践報告、短報、資料のほか書評、海外文献紹介、情報、会報などの欄をもうける。
4. 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
5. 原著論文は、心理劇あるいはその関連領域における未公開の独自性ある論文で、学術的考察のなされているものとする。
6. 総説は、心理劇あるいはその関連領域における特定の主題についての学問的動向を見渡し、著者独自の論考がなされている論文とする。
7. 事例研究は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動における事例について考察のなされている論文とする。
8. 実践報告は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動で得た知識、経験、成果などを報告する論文とする。
9. 短報は、心理劇あるいはその関連領域における萌芽的研究で、今後発展が期待できる研究を手短にまとめたものとする。
10. 資料は、心理劇あるいはその関連領域における掲載する意義があると考えられる実践、調査、事例、理論等に関するレポートとする。
11. その他必要に応じ、編集委員会での検討により論文の種類を新たに設定することがある。
12. 投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。
なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。
13. 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行われる。
14. 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
15. 本誌に掲載された論文を無断で複製および転載することを禁ずる。

心 理 劇 第 14 卷 第 1 号 編 集 日本心理劇学会編集委員会

2009 (平成 21) 年 12 月 1 日 発行 発 行 日本心理劇学会

〒 264 - 0007 千葉県若葉区小倉町 1639 - 3

植草学園大学発達教育学部発達支援学科

西村研究室気付

FAX 043 - 239 - 2609

製作 社団法人やどかりの里

やどかり印刷

〒 337 - 0026 さいたま市見沼区染谷 1177 - 4
